

MD1230/MP1590 ファミリ Ver.10.0 リリースノート

本リリースノートには、MD1230/MP1590 ファミリのソフトウェア バージョン 10.0 における機能アップ情報、既知の不具合の内容、使用上の注意点等の情報が記載されています。

目次

1. 取扱説明書一覧.....	2
2. バージョン情報.....	3
3. 新たに追加された機能.....	6
4. 変更内容.....	6
5. 既知の不具合.....	6
6. 使用上の注意.....	8
7. アップグレード時における注意.....	13

1. 取扱説明書一覧

今回のリリースに対応する取扱説明書は以下のとおりです。

型名	品名	版
W3872AW	MD1230B7 データクオリティアナライザ 取扱説明書	1.0
W1927AW	MD1230B データクオリティアナライザ 取扱説明書	31.0
W3895AW	MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ 取扱説明書	2.0
W2420AW	MP1590B ネットワークパフォーマンステスタ 取扱説明書	23.0

2. バージョン情報

今回リリースしたソフトウェアのバージョン情報は次のようになります。バージョン情報は、Main Application 画面右上の[?]ボタン-[Version...]で表示されるダイアログ、または、Setup Utility の [Version]タブで確認できます。Ver.10.00.xx は MP1590B では動作対象外となりますので、旧版をご使用ください。

Model Name		Versions	
MD1230B7	Data Quality Analyzer (型名は MD1230B と表示されます)	Version 10.00.02	
MX123001A	Data Quality Analyzer Control Software		
MD1230B	Data Quality Analyzer	Version 10.00.02	
MP1590B8	Network Performance Tester (型名は MP1590B と表示されます)	Version 10.00.01	
MX159001B	Network Performance Control Software		
MP1590B	Network Performance Tester	Version 9.06.21	
MD1230B/MD1230B7	Data Quality Analyzer	boot	4.00.03
		apl	9.06.10 ..
		FPGA/GPS	4.00.02
		FPGA/DCS	4.00.00
MP1590B/MP1590B8	Network Performance Tester	boot	2.02.00
		apl	9.06.11
		CPU MAX FPGA	2.02.00 or 2.06.00
		DCS MAX FPGA	2.02.00 or 2.04.00
MU120101A	10M/100M Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx	4.01.00
		H8	3.00.01
MU120102A	Gigabit Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx	8.01.01
		H8	3.00.01
MU120103A	2.5G(1.31) Module	PCI	1.00.00
MU120104A	2.5G(1.55) Module	FPGA/Tx SDH	2.00.06
		FPGA/Tx PPP	3.00.08
		FPGA/Rx SDH	2.00.03
		FPGA/Rx PPP	3.00.06
		H8	3.00.01
MU120103B	2.5G(1.31) Module	PCI	1.00.00
MU120104B	2.5G(1.55) Module	FPGA/Tx SDH:G	3.00.04
		FPGA/Tx PPP:G	3.00.07
		FPGA/Rx SDH:G	3.00.12
		FPGA/Rx PPP:G	3.00.12
		FPGA/Tx SDH:P	3.00.07
		FPGA/Tx PPP:P	3.00.09
		FPGA/Rx SDH:P	3.00.08
		FPGA/Rx PPP:P	3.00.18
		H8	3.00.01
MU120105A	10G(1.31) Module	PCI	1.00.00
MU120106A	10G(1.55) Module	FPGA/Tx SDH	3.00.04
		FPGA/Tx PPP	3.00.08
		FPGA/Rx SDH	3.00.02
		FPGA/Rx PPP	3.00.08
		H8	3.00.01

Model Name		Versions	
MU120111A	10/100M Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx	8.01.00
		boot	2.01.03
		apl	9.00.08
MU120112A	Gigabit Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx:D	8.01.01
		FPGA Tx/Rx:A	8.01.01
		boot	2.01.03
		apl	9.00.08
MU120118A	10 Gigabit Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA/Tx	8.01.00
		FPGA/Rx	9.00.00
		boot	3.04.01
		apl	9.00.08
MU120118B	10 Gigabit Ethernet Module	PCI	1.00.00
MU120118C	10 Gigabit Ethernet Module	FPGA/Tx	8.01.00
		FPGA/Rx	9.06.01
		boot	3.04.01
		apl	9.00.08
MU120119A	OC-3/12 STM-1/4 Module (1310 nm)	PCI	1.00.00
MU120120A	OC-3 STM-1 Module (1310 nm)	FPGA Tx/Rx	2.02.08
		boot	2.02.01
		apl	2.02.36
MU120121A	10/100/1000M Ethernet Module	PCI	1.00.00
MU120122A	Gigabit Ethernet Module	FPGA Tx/Rx	9.04.01
		FPGA PPPoE Tx/Rx	1.00.08
		boot	4.00.02
		apl	9.00.08
		apl PPPoE	1.00.07
MU120131A	10/100/1000M Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx	9.06.02
		boot	7.00.01
		apl	9.00.08
MU120132A	Gigabit Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx	9.06.02
		boot	7.00.01
		apl	9.00.08
MU120138A	10 Gigabit Ethernet Module	PCI	1.00.00
		FPGA Tx/Rx	9.06.05
		boot	9.00.00
		apl	9.00.08
MU150100A	10/10.7G Unit	MAX FPGA	3.11.00
			1.00.00
MU150101A	2.5/2.6G EoS Unit	MAX FPGA	3.20.00
			2.00.00
		H8	3.00.01
MU150110A	Multirate Unit	MAX FPGA	1.20.00
			1.00.00
		apl Rx	1.00.43
MU150121A	10/10.7G Optical Unit (TX)	MAX FPGA	1.00.00
MU150121B	10/10.7G Optical/Electrical Unit (TX)	MAX FPGA	1.00.00
MU150122A	10/10.7G Optical Unit (RX NARROW)		
MU150123A	10/10.7G Optical Unit (RX WIDE)	MAX FPGA	1.00.00
			1.01.00

Model Name		Versions	
MU150123B	10/10.7G Optical/Electrical Unit (RX WIDE)		1.00.00
MU150124A	10.3G Optical Unit(RX WIDE)	MAX FPGA	1.00.00
MU150124B	10.3G Optical/Electrical Unit (RX WIDE)		
MU150134A	10/10.7G Optical Unit (TX EX. MOD)		
MU150125A	10/10.7G Jitter Unit		2.00.00
		MAX FPGA	1.00.00
MU150135A	10/10.7G Optical Unit(XFP)		1.04.00
		MAX FPGA	1.00.00

3. 新たに追加された機能

今回のリリースで追加された機能は以下のとおりです。

- MD1230B7 に対応 *1
- MP1590B8 に対応 *2

*1: MD1230B7 では、Ver.10.00.00 以降から動作致します。

*2: MP1590B8 では、Ver.10.00.00 以降から動作致します。

4. 変更内容

今回のリリースで修正・変更された内容は次のとおりです。

※ 前回までの変更内容については、弊社担当営業までお問い合わせください。

対象品名	変更内容
MD1230B7 データクオリティアナライザ	➤ Ver.10.00.00 で MD1230B7 に対応しました。使用可能モジュールは、MU120131A/132A/138A です。詳細については、「MD1230B7 データクオリティアナライザ取扱説明書」をご参照ください。
MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ	➤ Ver.10.00.00 で MP1590B8 に対応しました。使用可能モジュールは、MU150110A/121A/123A/125A です。詳細については、「MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ取扱説明書」をご参照ください。
MD1230B7 データクオリティアナライザ MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ	➤ [CM1130: 1341] 正面パネルのボタンと LED が動作しない場合がある問題を修正。(Ver10.00.01 以降で修正)
MD1230B/MD1230B7 データクオリティアナライザ	➤ [CM1130: 1342] RFC2544 自動測定において、VLAN 有設定時におけるフレーム送信数が正しくない問題を修正。(Ver10.00.02 以降で修正)

5. 既知の不具合

今回のバージョンで確認されている不具合は次のとおりです。

対象	内容
MD1230B/MD1230B7 データ クオリティ アナライザ MP1590B/MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ MX123001A MX159001B コントロールソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ➤ [CM1130:0648] カウンタ機能のグラフ表示でレートカウンタを選択し、Resolutionを1s以外にしたときの値が積算値になってしまっています。 ➤ [CM1130:0935] 画面で Group Counter を表示していると、Group 機能のリモートコマンドが正しく動作しません。回避するためには、画面で表示しているのと違うグループをリモートで選択しないようにする必要があります。Group 機能のリモートコマンドを使うときには、画面でも同じグループを表示しておくか、Group 以外の画面に移動してお使い下さい。 ➤ [CM1617:0027] MP1590B (MP1591A)の DCS_MUX_FPGA のバージョンが Ver2.02 (Ver6.06) の場合は、PDH 45M と 34M の Drop 機能が動作しません。弊社サービスセンターまでお問い合わせください。 ➤ [CM1130:1273] MP1590B: MU120118B/118C を1枚だけ挿入した構成のとき、送信クロック可変機能の誤動作により Tx Streamを100%レート

	で送信しても、100.01%になってしまう場合があります。弊社サービスセンターまでお問い合わせください。
<p>Ethernet モジュール</p> <p>MU120101A MU120111A 10/100M イーサネット モジュール</p> <p>MU120102A MU120112A MU120122A MU120132A ギガビットイーサネットモジュール</p> <p>MU120121A MU120131A 10/100/1000M イーサネットモジュール</p> <p>MU120118A MU120118B MU120118C 10 ギガビットイーサネット モジュール</p>	<p>➢ [CM1130:1225] MU120121A/122A: 10M Half で次の条件に当てはまらないバックプレッシャーを受信するとリンクダウンが発生する場合があります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バックプレッシャーパターン: 55 55 55 55 55 55 55 D5 xx xx (xx は JAM パターン) ・ 最小ギャップ: 12 byte <p>➢ [CM1130:0784] MU120102A/112A/118A/118B/118C: Tx Stream 機能で、TCP/UDP Port Number と Sequence Number (Data Field 1 SN, Test Frame SN, Programmable Header Pattern SN) のインクリメント機能を使用して、設定ストリーム数が(複数ではなく)1 つのとき、Jump 後の値が初期値に戻りません。</p> <p>➢ [CM1130:0784] MU120118A/118B/118C: Tx Stream 機能で、MAC/IPv4/IPv6 の DA/SA と VLAN ID のインクリメント機能を使用して、設定ストリーム数が(複数ではなく)1 つのとき、Jump 後の値が初期値に戻りません。</p> <p>➢ [CM1130:0948] MU120118A/118B/118C: Pause フレームを連続的に受信しているときに、両ポートで送受信を行うと Line Error が発生してしまいます。</p> <p>➢ [CM1130:0886] MU120121A/122A: Tx Stream 機能で Protocol 設定に UDP/IPV6 を指定して Data Field に Sequence number を指定すると、Offset の設定により Sequence number が 0 固定となってしまう場合があります。</p> <p>➢ [CM1130:1017] MU120118A/118B/118C: LFS パターンの後、ギャップなしでフレームが始まったとき、Frame 先頭を検出できません。</p> <p>➢ [CM1130:1008] MU120118A/118B/118C: Latency is out of range 条件でトリガを設定したとき、条件に一致したフレームの2~3個後のフレームでトリガが掛かったように表示されてしまいます。</p> <p>➢ [CM1130:0956] MU120118A/118B/118C: フローコントロールが有効かつ、Pause フレームを連続的に受信していて、フレームが送信されないとき、Tx Stream 機能を開始していても送信ボタンの表示が「停止中」となります。</p>
<p>MU120103B MU120104B 2.5G モジュール</p> <p>MU150100A 10/10.7G ユニット</p> <p>MU150101A 2.5/2.6G Eos ユニット</p>	<p>➢ [CM1130:0175] MU120103B/104B, MU150101A: Port Setting の Scramble / Descramble core Header, Scramble / Descramble Payload Area を OFF→ON とした場合、まれに GFP に関するエラーが発生し続ける場合があります。この問題が発生した場合は、再度この設定を ON→OFF→ON とすることにより正常状態に復帰します。</p> <p>➢ [CM1130:0205] MU150101A: EoS モードから SDH/SONET/OTN モードに切り替えたとき、“0: Execution error”というエラーメッセージが表示される場合があります。</p> <p>➢ [CM1130:0274] MU150101A: ストリーム送信中に Ping/ARP パケットを受信するとストリームデータが正しく送信されない場合があります。</p> <p>➢ [CM1130:0601] MU150101A EoS モード:Path Monitor Data を印刷すると LCAS State の値が正しく出力できません。</p> <p>➢ [CM1130:0924] MU150100A: ビットレートを 9953M から 10.7G に変更したときに、まれにエラーフリーにならない場合があります。この問題が発生した場合は、再度ビットレートの設定を 10.7G→9953M→10.7G とすることにより正常状態に復帰します。</p>

6. 使用上の注意

MD1230/MP1590 ファミリを利用する際に注意していただきたい内容です。

対象	内容
MD1230B7 データ クオリティ アナライザ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ MD1230B7 では、Ver.10.00.00 以降から動作致します。 ➢ 使用可能モジュールは MU120131A/132A/138A です。
MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ MP1590B8 では、Ver.10.00.00 以降から動作致します。 ➢ 使用可能モジュールは、MU150110A/121A/123A/125A です。
MD1230B/MD1230B7 データ クオリティ アナライザ MP1590B/MP1590B8 ネットワークパフォーマンステスタ MX123001A MX159001B コントロールソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ➢ [CM1130:0123] Unit をまたぐ Tx Stream 設定のコピー&ペーストはできません。 ➢ [CM870:0374] ユニット中のモジュール構成が変更になるとストリーム設定がクリアされます。 ➢ [CM563:0089],[CM620:0448] Capture 画面でデコード表示できる文字数は最大 64kByte までです。64kByte 以上の部分は、デコード画面に表示されません。 ➢ [CM620:0305] Capture の Status に表示される Error 項目には PRBS Bit Error と Sequence Error は含まれません。 ➢ [CM620:0244] Trigger および Filter 条件を設定して Capture する場合、Ethernet Module と POS Module で取り込み条件が異なります。Ethernet Module では Trigger Frame はすべて取り込む仕様ですが、POS Module の場合 Trigger Frame 設定されていても Filter Frame でなければ Capture されません。 ➢ [CM849:0115] フレーム長により設定できるストリーム数が変化します。詳しくは取扱説明書をご覧ください。 ➢ [CM1130:0018] キャプチャフィルタ条件に一致しない、かつ下記フレーム長より長いフレームを受信した場合には、キャプチャ可能なデータ量が搭載されているメモリ容量よりも少なくなります。 MU120101A/111A: 1000 byte MU120102A: 920 byte MU120112A/121A/122A: 1948 byte MU120118A/118B/118C: 3328 byte MU120103A/104A/105A/106A/103B/104B: 1266 byte MU120119A/120A: 400 byte MU120131A/132A: 8064 byte ➢ [CM1130:0206] ログ機能動作中はリモートコマンド動作やセーブロードを行うことはできません。 ➢ [CM1130:0479] 異なる Unit 間で RFC2544 の Reset 試験を行うことはできません。 ➢ [CM1130:0612] OSPF 機能で、設定される複数の仮想ルータの Router ID を同じ値にすると正常に動作しません。 ➢ [CM1130:0740] Ethereal/Wireshark との協調動作で、キャプチャデータ量が多い場合は Ethereal/Wireshark の制限によりエラーとなる場合があります。 ➢ [CM1130:0931] Address Swap モードで折り返し送信するとき、Preamble 情報は保存されません。このため、出力フレームのプリアンブルのパターン 55(h)は、入力フレームのパターンと異なることがあります。 ➢ [CM1130:0939] Unit の Alarm LED は、[Display Option]設定で選択した Alarm が発生したときに点灯します。しかし、Port アイコンでは、[Display Option]設定で選択していない Alarm の発生でも Alarm 状態の表示となります。

対象	内容
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ [CM1130:0897] MD1230A/MD1231A/MD1230B/MP1590B: Windows のスクリーンセーバを設定すると、長時間動作で異常となることがあります。スクリーンセーバの設定は出荷時の状態 (None) で使用してください。 ➢ [CM1130:0937] Ver.9.0 で、History LED の消灯条件を変更しました。 ➢ [CM1130:0734] Port Setting をレポート出力するとき、Physical IF タブの設定内容はタブを選択したときしか出力されません。 ➢ [CM1130:0891] Group 画面で Capture 結果のレポート出力を行うとき、ポート毎にキャプチャフレーム数が異なる場合は、指定どおりのフレーム数がレポート出力されない場合があります。 ➢ [CM1130:0903] MU120121A/122A/131A/132A/138A: Reserve していないポートでは、Flap Setting/Clock Offset の設定がレポート出力されません。 ➢ [CM1130:0903] MU120131A/132A/138A: 全てのポートを Reserve していないと、Clock Offset の値がレポート出力されません。 ➢ [CM1130:0903] MU120131A/132A/138A: Link Flap Start している状態では、Flap Setting がレポート出力されません。 ➢ [CM1130:0903] MU120118A/118B/118C: Clock 設定がレポート出力されないことがあります。
Ethernet モジュール MU120101A MU120111A 10/100M イーサネット モジュール MU120102A MU120112A MU120122A MU120132A ギガビットイーサネットモジュール MU120121A MU120131A 10/100/1000M イーサネットモジュール MU120118A MU120118B MU120118C 10 ギガビットイーサネット モジュール	<ul style="list-style-type: none"> ➢ [CM1600:0466] Port Setting 画面の ARP Reply 設定を Reply to all ARP Request にすると、すべての ARP Request に応答を返してしまうため、複数ポートで使用するとネットワーク全体の動作が異常となります。Reply to all ARP Request は動作をよく理解したうえでご使用ください。通常は、Reply to this port を使用してください。 ➢ [CM1600:0466] This Port 画面の MAC Address 設定をマルチキャストに設定する(先頭 byte の最下位 bit を 1 にすると)、そのポートのプロトコルエミュレーション機能で送信するフレームの送信元アドレスがすべてマルチキャストとなり、このパケットに応答するフレームの宛先もすべてマルチキャストになってしまうため、接続されているネットワークの動作が異常となります。 ➢ [CM1130:0244],[CM1130:0691] MU120102A/112A/122A(SFP)/132A: Tx Stream 設定のフレーム長またはギャップ長が奇数のとき、設定した ISG に対して、実際に送信される ISG が 1Byte 分短くなります。したがって、実際の送信レートが設定したレートを超えることがあります。 ➢ [CM1262:0419],[ADE968:0038] MU120102A/112A/122A(SFP)/132A: Tx Stream 機能の Frame Length 設定値が奇数または Random/Increment の場合、IFG/IBG/ISG 設定の最小値は 9(byte)となります。 ➢ MU120101A と組み合わせてレイテンシ測定を行う際は他のモジュールの送信フレームを「MD1230A Test Frame for MU120101A」に設定してください。 ➢ [CM870:1148] MU120101A/111A/121A/122A: ケーブルを抜いているとき、送信レートカウンタの値が異常な値となります。 ➢ [CM488:0383] MU120118A/118B/118C アンフレーム測定(オプション 13)において、Individual でエラーを挿入する場合、タイプを「Bit all」にすると Lane3 のみエラーを挿入します。各 Lane でのエラーを確認する場合は、タイプを「Bit all(Lane0)」、「Bit all(Lane1)」、「Bit all(Lane2)」、「Bit all(Lane3)」それぞれに設定して測定して下さい。 ➢ [CM1130:0302] スルーモードで入口と出口のリンク状態 (10M/100M/1000M, Full/Half) が一致しない場合は正常に通信することはできません。

対象	内容
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ [CM1130:0302] Through モードを使用する際は、Through モードにする前に Normal モードで事前にリンクアップしておく必要があります。 ➤ [CM1451:0070] MU120121A/22A/31A: Link Speed が 1000 Mbps のとき、Tx Stream 設定の Preamble(可変)フィールドの先頭の 1byte は編集が出来ません。常に 55(hex)が送出されます。 ➤ [CM1451:0069] MU120121A/122A/131A: Link Speed が 10 Mbps のとき、Preamble のキャプチャ・カウンタ機能は正常に動作しません。 ➤ [CM1130:0125] MU120118A/118B/118C: PCS Type=WAN(WAN-PHY) のとき、ISG のバイト数が小数となる設定の場合は、設定画面通りのレートが送信されません。 ➤ [CM1130:0459] MU120121A/122A(RJ-45)/131A: 対向装置が Back Pressure 時に出力するパターンが JAM のみの場合、PHY チップの制限により、リンク断になることがあります。リンク断にならないためには、JAM のみでなく Preamble+SFD+JAM となっている必要があります。 ➤ [CM1130:0485] MU120121A/122A の RJ-45 ポートでは、Auto negotiation Off で Line Speed 10M の時に、被測定器から frame が送出されている状態でケーブルを接続しても Link Up しません。 ➤ [CM1130:0989], [CM1130:0888] MU120131A/132A: Ver.9.0 より、Type が Flow ID の Test Frame は、Sequence Error カウンタのカウント対象から外れました。また、Type が PRBS の Test Frame は、マルチフローカウンタの Sequence Error カウンタのカウント対象から外れました。この修正により、Flow ID の Test Frame はマルチフローカウンタの Sequence Error でカウントされ、それ以外の種類の Test Frame は(マルチフローカウンタでない)Sequence Error カウンタでカウントされるようになります。 ➤ [CM1130:0800] Port Setting の Preamble 設定を On にして Tx Stream の Protocol を MAC Control Frame にしたとき、Frame View の Decode 表示が異常となりますが、実際の送信データは設定内容のとおり送信されます。送信内容を Decode 表示で確認したい場合は、Preamble 設定を Off にしてください。 ➤ [CM1130:0799] Tx Stream 機能で Protocol 設定を MAC Control Frame にすると、Preamble 設定は表示されなくなりますが設定は有効です(表示がなくなる前に設定されていた内容で動作します)。 ➤ [CM1130:0818] Port Setting の Mapping を Unframed にしたときは、Flow Control の設定は Off にしてください。 ➤ [CM1130:0841] 1000BASE-T の GBIC は MU120112A のみ使用できません。MU120102A では挿入できません。また、MU120112A で使用するときは以下の注意事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1000BASE-T の GBIC は応用部品の G0124A を使用してください。それ以外は保証対象外となります。 ・ Auto Negotiation の設定は Off にして使用してください。 ・ MII Register 設定画面は使用できません。 ・ Self Test の Flow Control 試験を行うことはできません。 ➤ [CM1130:1034] Tx Stream の Error Insertion で Oversize を指定した場合は、1519 byte のフレームが送信されます。このため、Port Setting の Maximum Frame Size 設定値が 1519 以上の場合は、このストリームを送信しても Oversize Error がカウントしません。 ➤ [CM1130:0997] MU120118C: Setup Utility の Version タブで MU120118C のバージョンを確認したとき、2 スロットのうち、大きなほうの slot 番号で表示されますが、MX123001A では小さいほうの Slot 番

対象	内容
MU120103A, MU120104A, MU120103B, MU120104B 2.5G モジュール MU120105A, MU120106A 10G モジュール MU120119A OC-3/12 STM-1/4 モジュール(1310nm) MU120120A OC-3/STM-1 モジュール(1310nm)	号を指定して操作します。 > [CM870:0253] Latency の結果が無効表示(-)になることがあります。 > [CM620:0309] MU120103B/104B で、Mapping で PPP/LEX/LAPS 選択時の Dummy Payload には flag が含まれていません。 > [CM849:0206],[CM1804:0008] MU120103B/104B, MU150101A: Mapping を GFP に変更した直後の受信フレームは tHEC エラーとなります。これは、フレーム単位でスクランブルを行う GFP で、最初の 1 フレームの受信ではデスクランブルの情報が足りないためです。 > [CM563:0191],[CM563:0193] MU120119A/120A: ポート設定画面で Loopback に設定したとき、外部にも Frame を送信します。 > [CM1130:0908] Tx Stream の Data Field に「Test Frame for MU120101A」を指定して Frame Length を Auto にしたとき、Offset を 0 より大きな値に設定しても設定どおりに動作しません。
オプション 10 RFC2889 ベンチマーキングテスト	> [CM1130:1041] RFC2889 Automatic Test - Throughput など 2 分探索に時間のかかる測定でも、Learning Frame を測定の開始時に一度しか送っていません。このため、Forward Pressure and Maximum Forwarding Rate のような片方向の試験だと、測定の途中で受信側ポートがアドレステーブルから消えてしまい、正しい結果が出ない可能性があります。 > [CM1130:0993] RFC2889 Automatic Test の Address Caching Capacity 試験で、(T Port から L Port へ送信される) テストフレームの送信レートは、(L Port から T Port へ送信される) ラーニングフレームの送信レート (Address Learning Rate) と同じにしています。Address Learning Rate の初期値は 50fps と低いので、アドレス数が多いと送信し終えるまでに Age Time を過ぎてしまい、正しい測定ができない可能性があります。 > [CM1130:0998] RFC2889 Automatic Test - Forward Pressure and Maximum Forwarding Rate で、間違っ「Forward pressure detected」と判定してしまう場合があります (送受信バッファを持つ装置などの場合)。 > [CM1130:1004] RFC2889 Automatic Test - Congestion Control で、Address per Port を 1 より大きな値に設定しても、設定どおりに動作しません。 > [CM1130:1006] RFC2889 Automatic Test - Broadcast Frame Forwarding and Latency の設定項目の中に Addresses per Port がありますが、この設定項目を設定しても意味はありません。
オプション 01/02/03 RS-232C/GPIB/Ethernet コントロール ※MX123001A ではオプション 07,09,10	> [CM488:0120],[CM488:0501] リモートコマンドでオートマチック試験を実行しているときにリモート状態を解除すると測定を正しく行うことができません。 > [CM620:0422] Stream 送信中に Data Field 1 の Programmable パターン設定の内容を参照することはできません (All 0 と表示されます)。 > [CM1130:0858] リモートコマンド :COUNter:GRAPh:DATA? でグラフデータを取得する際は、一度画面上にグラフを表示する必要があります。Ver.9.0 以降は、この制約はマルチフローカウンタのみで、その他のカウンタにこの制約はありません。

7. アップグレード時における注意

アップグレードを行う際は必ずお読み下さい。

対象	内容
MD1230/MP1590 ファミリ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ソフトウェアのアップグレードを行う場合は、ソフトウェア CD-ROM に入っているバージョンアップ手順書に従ってアップグレードを実施して下さい。 ➢ [CM1130:0483] バージョンチェックエラーが出ている状態では動作保障されません。Setup Utility の Download 機能でファームウェアを更新する必要があります。詳細については、バージョンアップ手順書を参照してください。 ➢ ソフトウェアのアップグレードを行うと保存した設定ファイルを読み込むために変換処理が必要となる場合があります。このような場合、Setup File Converter というソフトウェアツールを使用して変換処理を行います。使用方法については取扱説明書を参照してください。 ➢ [CM1804:0001] Ver.8.2 で動作可能な Ethereal のバージョンが 0.10.13 に変更されました。
MD1230B/MD1230B7 データ クオリティ アナライザ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ [CM1130:0975] MD1230B は Ver.4.1 より前にバージョンダウンすることはできません。MD1230B に Ver.4.0 以前のソフトウェアをインストールしてしまった場合、正常に起動できなくなります。 ➢ MD1230B: ソフトウェアバージョンが 4.01.19 よりも小さなバージョン (4.0106, 4.0111, 4.01.18 など) をご使用のお客様はこのソフトウェアによるバージョンアップを行うことはできません。弊社営業担当までご連絡ください。 ➢ [CM1130:0197] MD1230B: ソフトウェアのアンインストール後とインストール後に「I Kernel.exe Application Error」が発生する場合がありますが、実際の動作には問題はありません。このような現象が発生した場合はお問い合わせください。 ➢ [CM1130:1300] Ver.9.06.10 以降ではインストール時のプロダクトキー入力が不要になりました ➢ MD1230B7 は Ver.10.0 より前にバージョンダウンすることはできません。MD1230B7 に Ver.10.0 より前のソフトウェアをインストールしてしまった場合、正常に起動できなくなります。
MP1590B/MP1590B8 ネットワークパフォーマンスステスタ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ [CM1130:0779] MP1590B のソフトウェアバージョンが Ver.5.0 以前をご使用のお客様はこのソフトウェアによるバージョンアップを行うことはできません。アンリツサポートセンターまでお問い合わせください。 ➢ [CM1262:0251] Ver.7.0 より MP1590B における Module 制限内容が変更されました。詳細については取扱説明書を参照してください。 ➢ [CM1130:1300] Ver.9.06.10 以降ではインストール時のプロダクトキー入力が不要になりました ➢ MP1590B8 は Ver.10.0 より前にバージョンダウンすることはできません。MP1590B8 に Ver.10.0 より前のソフトウェアをインストールしてしまった場合、正常に起動できなくなります。
MD1230A データ クオリティ アナライザ MD1231A/31A1 IP ネットワーク アナライザ MT7407A マルチスロットシャーシ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ Ver.7.0 以降のソフトウェアでは、MD1230A/131A/131A1、MT7407A はサポートされません。Ver.6.0 のソフトウェアをご使用ください。

対象	内容
MP1591A ネットワークパフォーマンステスタ	<ul style="list-style-type: none"> Ver.9.0 以降のソフトウェアを MP1591A で使用することはできません。Ver.8.2 のソフトウェアを使用してください。
MX123001A コントロールソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> [CM1262:0646] Ver.7.0 以降の MX123001A では、Windows98 はサポートされません。 [CM1130:1292] Windows7 は Ver.9.6 以降で対応しています。ただし、以下のオプションは Windows7 では動作保証しておりません。 <ul style="list-style-type: none"> ・MX123001A-06 Tcl インタフェース ・MX123001A-07 RS-232C コントロール ・MX123001A-09 GPIB コントロール ・MX123001A-01 MD1230A-04 用 リモートコントロール ソフトウェア ・MX123003A MX123002A 用 リモートコントロール ソフトウェア
MX159001B コントロールソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> [CM1130:1292] [CM1130:1292] Windows7 は Ver.9.6 以降で対応しています。ただし、MX159001B は Windows 7 の 64bit 版にはインストールできません。また、以下のオプションは Windows7 では動作保証しておりません。 <ul style="list-style-type: none"> ・MX159001B-01 RS-232C コントロール ・MX159001B-02 GPIB コントロール
MU120118B 10 ギガビットイーサネット モジュール	<ul style="list-style-type: none"> Ver.3.3 以前のソフトウェアでは MU120118B は正常に動作しません (Ver.3.1~Ver.3.3 のソフトウェアでは MU120118B が動作するように表示されますが、実際には正常に動作しません)。Ver.4.0 以降のソフトウェアをご使用ください。
MU120122A ギガビットイーサネットモジュール MU120121A 10/100/1000M イーサネットモジュール	<ul style="list-style-type: none"> MU120121A/122A の本体と接続するコネクタに以下のようなラベルが張ってある場合、動作可能なソフトウェアのバージョンは 5.00.27 以上となります。5.00.27 より小さなバージョンでは正常動作しません。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">CAUTION/注意</p> <p style="text-align: center;">This board is supported with 1230/1590 software ver5.00.27 or more. Refer to the release note. このボードは1230/1590ソフトver5.00.27以上でサポートします。リリースノートを参照してください。</p> </div>
MU150125A 10/10.7G ジッタユニット	<ul style="list-style-type: none"> MU150125A に以下のようなラベルが張ってある場合、動作可能なソフトウェアのバージョンは 8.02.13 以上となります。8.02.13 より小さなバージョンでは正常動作しません。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">CAUTION/注意</p> <p style="text-align: center;">This unit is supported with MP1590B software ver8.02.13 or more. Refer to the release note. このユニットはMP1590Bソフトver8.02.13以上でサポートします。リリースノートを参照してください。</p> </div>
オプション 17 トラフィック障害エミュレータ	<ul style="list-style-type: none"> MU120121A/122A に以下のようなラベルの貼り付けがない場合、オプション 17 の機能を使用することはできません (ファームウェアを Impairment に切り替えることはできません)。ラベルは本体と接続するコネクタに貼り付けられています。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>Supports Opt. 17</p> </div>
オプション 01/02/03 オプション 07/09/10 (MX123001A) RS-232C/GPIB/Ethernet コントロール	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアをアップグレードした場合、リモートコマンドの仕様を一部変更する場合があります。リモートコマンドを利用しているお客様は利用しているバージョンに対応したリモートコントロール取扱説明書を確認して頂きますようお願いいたします。